

「輝け憲法と地方自治」～連帯のちからで情勢を確かなものに～

まびだんご

2010/3/24 (水) NO. 3

発行：第10回地方自治研究全国集会岡山県実行委員会

事務局：自治労連岡山県本部

Tel086-223-0911・Fax086-227-1393

jichiroren-okayama@ac.auone-net.jp



第10回地方自治研究全国集会 in 岡山

10月16日(土) 岡山シンフォニーホール^{ほか}

☆受付開始

12:45～ ☆現地歓迎行事

13:45～ ☆記念講演

17:30～ ☆ナイター講座

10月17日(日) 岡山大学一般教育棟^{ほか}

9:30～15:00 ☆分科会・講座

☆参加費

2日間参加/1日のみ参加

議員など自治体関係者 6,000円/3,000円

住民団体、個人、学生 2,000円/1,000円

※宿泊費、旅費、弁当代、現地ナイター講座、現地分科会の参加費は別に料金がかかります。

開会は
12時45分

オープニングは岡山の踊り「うらじゃ」と桃太郎の劇で 現地分科会の検討もすすむ ～第3回岡山県実行委員会～

第10回地方自治研究全国集会の第3回岡山県実行委員会が3月13日に岡山市勤労者福祉センターで開催され31名が参加しました。

最初に自治労連本部の中川書記次長から、「自治労連は住民の暮らしを守り、そこで働く自治体労働が誇りを持って安心して仕事ができる職場づくり・対話と提言運動に取り組んでいる」「地域主権を掲げる政権の元で、岡山で開催される全国自治研集会を通じて地方自治を取りまく情勢の共通の認識をもって、共同のとりくみを前進させることにより日本と地域の未来を切り開く歴史的意義をもつ集会としたい」とのあいさつを受けました。

その後、木村全国自治研事務局長（自治労連中央執行委員）から、「今後は27分科会ごとに運営委員会を開催して4月中には分科会の名称・テーマ・内容・助言者などを決定したい」「基調報告についてもみなさんの意見を聞かせてほしい」「記念講演の講師については要請中」などの報告がありました。

現地実行委員会の事務局からは、現地分科会の企画内容やオープニングは保育士が中心となり岡山を代表する踊り「うらじゃ」と桃太郎の劇で参加者を迎えることなどが報告されました。

当面の分科会運営委員会の日程・場所

3/28 第9分科会(岡山市勤労者福祉センター)

3/31 第10分科会(自治労連本部)

4/4 第3分科会(岡山県本部会議室)

第11分科会(岡山・在宅福祉総合センター倉田)

第24分科会(岡山県労働組合会議室)

4/5 第22分科会(自治労連都庁職会議室)

4/10 第6分科会(自治労連本部)

4/24 第21分科会(岡山市勤労者福祉センター)

4/28 第7分科会(兵庫自治労連)

みんな違って面白い 桃太郎話

だれもが知っている桃太郎のお話。でも、ところ変われば話も変わる、意外にも日本全国でいろいろな桃太郎の話が存在します。地域を超え、時代の流れの中で桃太郎はさまざまな形を見せています。

(「桃太郎話・みんな違って面白い」：立石憲利編著より一部抜粋)

桃太郎発祥の地と言われる岡山でも、よく聞く普通の桃太郎の話ではなく、オープニングでは岡山に伝わる岡山ならではのお話でみなさんを歓迎します。

現地ナイター講座 10月16日(土) 17時30分～19時

『立石おじさんの民話と岡山の地酒』(仮称)

ナイター講座では、岡山民俗学会理事長の立石憲利さんに岡山ならではの民話を語って貰います。岡山弁を使っの語りは味があり、民話にまつわるエピソードや時代背景をまじえた話は大人もうなずく面白さです。話の合間には自慢の地酒をふるまいます。ナイター講座で観光では触れられない岡山を満喫してください。



現地実行委員会には自治労連の他に多くの団体の参加をいただいています。そこで実行委員会自体を学習の場にしようと、参加団体から話題を提供してもらっています。

第3回実行委員会では、岡山県地域人権運動連絡協議会の吉岡事務局長に「部落問題解決と危険な人権擁護（救済）法」について報告してもらいました。

部落問題解決と危険な人権擁護(救済)法

部落問題の現状は2002年3月末に特別立法が終結し、岡山県下の自治体では「同和」を冠した部署は無くなっているが、全国的にはまだまだあり、さらに同和对策や一般行政施策といながら地域を特定した対策を継続している自治体がある。

人権擁護（救済）法について、千葉法務大臣は2月23日の衆議院法務委員会で「より実効性のある救済を実施するためには、政府からの独立性を有する人権救済機関の創設が必要」としている。しかし、えん罪や不当逮捕などがあった場合、警察や弁護士などが入っていない委員会を作り、そこで議論する事になると委員会のやりたい放題になる危険性もあること、さらに委員会は人権と言えどこにでも入り込める組織になり国にできれば、各県にできる。このままの流れで法案が成立すると、これまで行われていた「確認・糾弾会」を社会的に免罪し今後に大きな禍根となる。

鳩山首相は国会で松岡議員の質問に対して「早期成立を期す」と答弁しており、共謀罪などとセットで考え、全体として国の動きを注視しておく必要がある。

現地分科会のテーマ

【3月13日現在でさらに検討します】

① 倉敷のまちなみ保全

テーマ：町衆文化のまちなみを歩く

討論内容：伝統的建築物群保存地区に指定されている江戸時代天領であった町衆文化のまちなみを散策し、景観保全について学習する。

② 児島のジーンズ産業・水島の環境

テーマ：公害から環境再生の水島とジーンズ発祥の児島

討論内容：大気汚染公害地域、水島での環境再生・まちづくり、瀬戸大橋の景観破壊・騒音問題、そして児島が世界に誇るジーンズから地域づくりについて考える。

③ 長島愛生園と備前焼き祭り

テーマ：ハンセン病問題の現状と未来への展望

討論内容：長島愛生園でハンセン病問題の歴史とこれからの課題を学習し、備前焼き祭りで備前焼に触れる。

表町商店街と連携

物産展に障岡連からも出展

1日目の会場である岡山シンフォニーホール周辺にある表町商店街に要請し、垂れ幕などにより全国からの参加者への歓迎をお願いしました。また参加団体のひとつである障害者の生活と権利を守る岡山県連絡協議会から、物産展に作業所で作成した物品を出展することが決まりました。

その他にも、岡山県商工団体連合会の協力のもときびだんごやフルーツなど岡山らしいお土産を計画中です。



当面の日程

4/9 (金) 第3回現地実行委員会事務局会議

(14時～/岡山市勤労者福祉センター)

5/15 (土) 第4回現地実行委員会

(13時～/岡山市勤労者福祉センター)

新温羅伝説



岡山県総社市にある鬼ノ城。日本100名城に選定。

温羅伝説とは、吉備地方に残る、桃太郎話のモチーフとなったといわれる伝説です。

温羅は製鉄技術をもたらした吉備を治めた技術者であり豪族ではないかとされています。また、血吸川の川の赤さは鉄分によるものであろうとも言われています。吉備地方は古くから鉄の産地として知られ「真金吹く吉備」と呼ばれていました。

「桃太郎伝説」では「悪者」として描かれている温羅。しかし「温羅を中心に勢力を増す吉備津の存在を恐れ、これを征服するために大和朝廷が吉備津彦命を派遣した」と見方を変えてみると、どうでしょう。

吉備の国を守るため、「侵略者」である吉備津彦命に敢然と立ち向かった温羅の、知られざるもう一つの顔が見えてきます。